

今、都会では、騒音にも近い「クマゼミ」の鳴き声に辟易するのですが、標高の高い南河内の山々では...

金剛山頂(付近)の「ちはや園地」では、「ヒグラシ」の声が大半を占め、「ニイニイゼミ」がそれに少し加わる程度です。

もう少し標高の低いところでは、「ニイニイゼミ」や「アブラゼミ」が多いようです。

このように、自然度の高いところでは、何故か「クマゼミ」はほとんどいないようですね。

写真 : ヒグラシの抜け殻

大きさは 2.5 cm くらいです。(ちなみにクマゼミは 3.5 cm くらい)
木ではなく、草の茎や葉に付いていることも多いです。

写真 : ヒグラシ

「カナカナカナ...」と涼しげな声で鳴いています。
夕暮れ時に鳴くことから、「日を暮れさせる」という意味の「ヒグラシ」と命名されたようです。
確かに日の入り後の薄明時によく鳴くようですが、日の出前や気温の下がった時、曇って薄暗くなった時、或いは林内の薄暗いところなどでは日中でも鳴いています。
何故か木の幹や枝ではなく、道ばたの草むらの中にいる個体も多く、人間の足音に驚いて飛び立つ羽音に、逆にこちらが驚かされることもしばしば...

写真 : ニイニイゼミの抜け殻

大きさは 2 cm 弱くらいと小さいです。
木の幹の低いところや草の茎や葉に付いていることが多いです。
多種の抜け殻と違って、泥が付いているのが特徴です。

写真 ・ : ニイニイゼミの羽化

草むらの中で、昼間から羽化している個体に出会いました。
野草を見ていたときに偶然気づいたのです。

写真 : ニイニイゼミ

松尾芭蕉の有名な俳句「閑さや岩にしみいる蝉の声」で詠まれたセミは、時期などから本種である可能性が高いとされています。











